

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

① 第三者評価機関名

NPO 法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと

② 施設・事業所情報

名 称	: うれしの認定こども園	種 別	: 保育所型認定こども園
代表者 (園長)	: 萩野 道世	定員 (利用人数)	: 170 名 (156 名)
所在地	〒501-6003 羽島郡岐南町平島 8-53		
TEL	: 058-245-9962	ホームページ	: http://www.ureshino.or.jp
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	: 平成 31 年 4 月 1 日		
経営法人・設置主体 (法人代表)	: 社会福祉法人登豊会 (理事長 近石登喜雄)		
職員数	常勤職員 : 20 名	非常勤職員	: 9 名
専門職員	(専門職)		
	保育士 22 名	保育支援員	4 名
	非常勤保育士 3 名	時間外保育支援員	1 名
	事務員 1 名	環境整備支援員	1 名
施設・設備 概要	(居室数)	(設備等)	
	保育室 7 室	調理室・配膳室・沐浴室 (トイレ含む) ほふく室・遊戯室・事務室・職員室 休憩室・資料室 2 ヲ所・屋上 園児用トイレ 2 ヲ所・職員用トイレ 2 ヲ所 器具庫・機械室	

③ 理念・基本方針 (※転載)

理念

和願愛語

和やかなほほえみを持って優しい心と言葉で接します。

基本方針

- ・ 良質な水準かつ適切な内容の教育・保育の提供を行うことにより、全ての子どもが健やかに成長するために適切な環境が等しく確保されることを目指します。
- ・ 利用子どもの意思及び人格を尊重して、常に利用子どもの立場に立って、教育・保育を提供するよう努めます。
- ・ 地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、県、町、小学校、他の教育・保育施設、地域子ども・子育て支援事業を行う者等との密接な連携に努めます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

子ども一人ひとりが安定して自分らしさを発揮できる力、頑張る力、他者との関係を築く力を育てる保育をめざしている。

①遊びや活動を通して心を動かす体験を積み重ねられる保育を実践している。

（園庭で自由に遊ぶ、絵本を楽しみ絵本から創造へと発展、米作りや味噌作りなど体験）

②安心して自分らしさを発揮できる環境を構築している。

（保育補助員を活用し保育者がゆとりを持って保育に専念でき、チーム担当制の導入で多面的な見方で子どもと関わる）

③子どもたちの気持ちを受け止め、伸びようとする気持ちを引き出していく保育者の関わりを大切にしている。（保育者の年間研修の充実、公開保育、研究発表等で保育者の保育の質を高めている）

さまざまな取組で子どもたちの知識を覚えるだけでなく覚えた知識や技術を活用できる力を育てる保育を実践している。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年8月18日（契約日）～ 令和6年3月11日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

【働きやすい職場環境】

ICTの導入で登降園の管理、保護者への連絡など事務効率化を図り、保育補助員やフリー保育士を配置することで保育者は保育に専念できる体制を整え、休憩時間やノンコンタクトタイムの確保ができています。また、チーム担当制を導入したことで業務量や役割の均等化と子どもの育ちを多面的に理解し、職員のチームワークでワークライフバランスが取れ、働きやすい環境となっている。そうした環境は人材確保や保育の質の向上につながっている。

【子どもの主体性を尊重した保育実践】

絵本が身近にあり、子どもが自ら手に取って楽しめる環境を整備し、絵本から広がる遊びや子どもたち同士で力を合わせて創造活動を実践し、それを発表するプロセスを保育の中に取り入れている。絵本との関わりのみならず、さまざまな遊びや行事体験を通して体や心を動かし子ども一人ひとりが主体的に行動できる力を育てる保育を実践している。

【保育実践を理論的視点で捉える取組】

保育ドキュメンテーションを活用した保育記録は、保育者の主観的な捉え方に陥りやすいが、外部講師による研修や共同研究を通じて客観性と専門性ある記録の蓄積につながり、よ

り保育の質に効果的な実践となっている。また、絵本に親しめる環境づくりにおいても、読み聞かせに留まるのではなく、絵本から子どもが創造へと発展させ子ども同士で考え、発表するなど成長していく過程のツールとして取組み、絵本の世界への広がりを経験的視点で保育に活かしている。こうした保育実践を研究発表という形で園長がいろいろな場で報告し、広く保育者の質の向上に大きく寄与している。

◇改善を求められる点

【中長期計画の策定】

事業経営の課題を把握し、それに向けた中長期計画も明確になっているが、課題に対する具体的な取組内容やその成果、実施状況の評価、状況変化による見直し、必要な収支計画など一連の流れでの中長期計画の策定に期待したい。その計画が可視化できるとより分かり易い。

【保護者会の在り方】

働く保護者が多く、ICTでの情報発信は保護者と迅速にやり取りができ、保護者個々とは密に連携し子どもの成長を共有しているが、保護者への負担感に配慮し、保護者会役員が年長児保護者のみで構成されている。保護者の希望や課題など子どもの年齢によってニーズも異なることもあり、保護者組織としての意見を出してもらい、より良い園の運営へのためにも年齢別役員構成での保護者会が望ましい。保護者組織と連携し地域に根差した運営の強化に期待したい。

※ 上記2点を改善点に挙げたが、訪問調査後、直ちに改善に繋がられ、第三者評価を真摯に受け止め、よりサービスの向上に取り組む姿勢を評価したい。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

ICTアプリを導入して5年が経過しました。当園が特に力を入れているドキュメンテーションを活用した保育実践、事務作業の効率化、子ども主体保育等が評価された点においては大変嬉しく感じております。近年ではコロナ禍により例年通りの保育運営が実施できない状況に困惑しましたが保育や運営面を見直す良い機会になると考え、これまでの保育運営を幾度も職員間で話し合い、新たな保育実践へと繋げてきました。また、この度の第三者評価受審に伴い、保護者様からも多数の貴重なご意見をいただくことができました。現在の課題や新たな目標を掲げ、子どもたちの最善の利益となる保育の重要性を職員間で共有し、保護者との協働関係に努めて参りたいと考えております。

課題となる点におきましては真摯に受け止め、現状の不十分な状況を再確認し、保護者や地域の人々に親しまれる園運営、子どもが健やかに育つ環境づくりを引き続き心がけて参ります。

この度は様々のご教示をいただきましたこと、有意義な機会を得られましたことに大変感謝しております。ありがとうございました。

⑧ 第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。